

そうだった。「操作もできず、手も足も出ないのに我々がここにいる意味があるのか、なぜここにいるのか」と紛糾した。(最後はどう収めたのですかの問いに対して)自分が「ここに残ってくれ」と頭を下げた。続いて別の当直長も無言で頭を下げてくれた。「若い研修生 2 人は免震棟に避難してくれ、皆それでいいな」と話をし、2 人を退避させた。

- 手も足も出なかった時、何も出来ないから**非常用の乾パンと水を取ってきて食べろと指示し、少しでも落ち着かせようとした。**
- 一部の人からここに残ってどうなるんですかという意見があり、他の人も口には出さないが同じような思いだったと思う。**気分が悪くなって横になった人もいて、その人は今も（注：聞き取り時点）出社できない状況。**
- パラメータが見えてくる前は、**五感を失っている状況だった。**
- 訓練を色々行っていたが、それを活かせる状況ではなく、**手足を奪われたような状態の中、見れるデータを見ていたといった状況だった。**水素爆発のあたりから、**個人差もあるが落ち着かなくなる者もいた。**
- 中操内では、**被ばく線量を下げよう、当直員を 1 号側から 2 号側に寄らせてしゃがませた。**11 日の夜から明け方にかけて。**主任級でも目を見て不安がわかった。**
- **爆発後、メンバーが体調不良で 3 人くらい横になって起きられないような状況だった。**
- **情報がなく、プラントの状態も見えない中で、何かをしていないとおかしくなりそうだったので、次の作業を探して現場で作業をしていた。**情報がなかったから、作業が出来たのだと思う。
- 大物搬入口から水が入って来ているのを発見、のぞき込むとシャッターの下から水がしみ込んできた。その直後**シャッターが吹き飛び建屋内に津波が入って来た。2 人で走って離れたが恐怖で震えが止まらなかった。**
- 4B D/G の運転状況の（確認の）ため、共用建屋に入ろうとしたが**入り口ゲートに閉じ込められてしまった。**警備員に連絡したがつながらず、**2~3 分後に津波が襲ってきた。**水が下から侵入し、もう死ぬのかと思っていたところ、同じ状況にあった先輩社員のゲートのガラスが割れ、脱出でき、自分のガラスを割ってくれたおかげで脱出することが出来た。**その時にはあご下まで水が来ており、本当に怖かった。**
- 新 S/B（注：サービス建屋）の中を確認するために、建屋の中に入って窓から海を見たら、**遠くに水しぶきが上がっていた。**やばいかなと思って**2,3 階に行かないで扉を開けて声だけかけた。**危ないなと思って**新 S/B（注：サービス建屋）から出てきて、左側見たときには津波が 4 号機の方から来ていた。**それで 4 号前に放水口か取水口の点検口の鉄板、**でかいやつ、水柱 10 何メートルが上がったので足が竦んでしまって動きが止まってしまった。**新 S/B（注：サービス建屋）から S/B（注：サービス建屋。中央制御室に入るための建屋。新 S/B より 4 号機側にある。）に行